

第 1 回 新川崎地区新設小学校（仮称）基本計画検討委員会 デザインワークショップにおける主な意見

開催日時：9月27日（金）15:30～17:00

開催場所：御幸小学校 普通教室

①オープン型の普通教室、オープンスペースについて（御幸小学校）

- 広々として明るい空間、隣の教室の様子が音で分かる。教室前のスペースが学年の活動スペースとして使えるので、学年の実行委員会や集会などで使用している。安全管理面としてはオープンスペースの様子が把握しやすい。
- オープンスペースを学級スペースとして使用することがある。普通教室よりも広く使える。また、音の気になる子どもに対しては可動家具を間仕切りとして使うこともある。可動家具を学級担任が自由に動かしながらスペースを活用している。
- 音の問題としては、普通教室のオープンスペース側の壁が少し下がっているが、それだけで音が小さくなる。一歩外に出ると子どもたちも声が聞き取りにくくなる。
- オープン型だと子どもたちは落ち着きが無く、集中できないのではないかというイメージはあると思うが、子どもは順応性があり1ヶ月すれば黒板の方を向いて授業を受けられるようになる。
- 発達障害、特別支援の子どもだけでなく、その前後の子どもへの支援、いじめの早期発見と対応をする上ではオープン型の教室はよい。

②学年クラスターについて

- 学校運営上、学年によって階が変わるのは良くないと思う。使い勝手など学年の配置についても考慮していかなければならないと思う。増築した後もクラスターが維持できる方が良いと思う。
- 学年が同じ階に横並びになっている方がよいと思う。学年が変わると教室配置をどのようにするか考える時にも学年はなるべく階を跨がないようにしてきた。
- 学年 6 クラスというのは超大規模で非常に落ち着きが無く、建築空間的に非常に大き過ぎる。4 クラスの事例であっても間に緩衝スペースを設けて2と2に分ける工夫をして、普通教室前のスペースがあまり大きくならないように計画するのが小学校を作る上での原則である。6 クラスが横並びになると、学年でまとまっているといえ、学習空間、生活空間にはならない。3 クラス 3 クラスの間にコンコースを作ることで学年は 6 クラスだが 3 クラスずつに分かれて空間のスペースが和らぐと思う。
- 2 クラス 3 展開、3 クラス 5 展開など少人数分割授業を行うことを想定しておくことが必要。少人数分割が大きなテーマになった時に、今までは校内に1つか2つあった余裕教室を学年のまとまりの中に作らなければならない。
- オープンスペースは魅力的な空間なので、子どもたちは走ってしまっていたが、学年でダイナミックに総合的な活動などを行う時、模造紙を広げて活動する時においてもオープンスペースは魅力的である。
- 昔の片廊下の学校では子どもが教室から出ると廊下の端の方に居てもすぐに見る事が出来た。子どもを管理する、学年のまとまりと言いながら教員としては並んでいた方が安心する気持ちがあるので、そこで一工夫出来ると3クラスずつのまとまりでも意識して対応できるのかもしれない。

③普通教室廻りについて意見交換

- 教員の中にはパソコンで教材を作れる人もいると思うが、普通の授業の中で使う事を考えると 50 インチテレビを使って教材を提示することは手軽で使いやすい。天井にプロジェクターを設置し、ホワイトボードとプロジェクターの映像が連動して動くようなものがあると使いやすいと思う。タブレットを使うのであれば、全館又は部分的に無線 LAN を入れることは必須だと思う。
- 低学年は床に座る事があるので、絵本のコーナーに畳やちょっとしたテーブルなどがあると、子どもたちはほっと出来るのではないかと思う。衛生面の問題はあると思うが良いスペースだと思う。
- 教員は目の前の子どもがいてどういう動線を作っていくかアイデアを出す習性があると思う。シンプルなものに子どもの実態に合わせてプラスアルファするくらいが良いのではないか。
- 真ん中にある空き教室にみんなが集まれるようになると良いかもしれない。1 つのパターンを作って示すなど、教員も建築家の思いを学ぶ必要があると思う。
- 作り手と運用する側で学校は作っていくものだと思うので、最初の段階で作り込み過ぎてしまうとフレキシビリティが無くなるのかもしれない。
- 40 人のクラスで壁(スクールパーテーション)があると机もあるので子どもたちは動けない。特別支援級の子どもが交流で来ると 42、43 人になるので、教員も動けない。机の規格が変わって大きく、重くなった。
- 教室の広がるだけでだいぶ印象は変わる。

第2回 新川崎地区新設小学校（仮称）基本計画検討委員会 デザインワークショップにおける主な意見

開催日時:10月1日(火)15:15~17:00

開催場所:御幸小学校 特別活動室

① 学年クラスター・普通教室廻りについて

- 図工でのりを使う時、給食でジャムパンを食べた時など手を洗うが、廊下にある流し台に行ってしまうと教員の目が届かないので、教室内に流しがあると良い。デンについて、幼稚園などでは落ち着かなくなった時に別室でクールダウンさせることがあるが、学校に教室の近い場所にデンがあると教員の目が届くので良い。
- 教育相談のような部屋は別の場所に欲しい。オープンなので教員が誰か(子ども)と話しているところを他の子どもたちに見られない場所がいくつか欲しい。
- 学習の形態として調べて発表する活動はどの学年でも重要視されている。図書コーナーについては、近くにパソコン、タブレットがあると良い。御幸小は図書室の隣にコンピュータ教室があり自由に活用できる。今までは教室で資料を調べる子、図書室で調べる子、遠くにあるコンピュータ室にあるパソコンを使って調べている子など分散してしまっていた。
- パソコンと図書コーナーが一体化していると便利である。壁が無く、見通しやすくと教員が1人で把握ができると思う。
- 教材庫が学年ごとにあると面白い。今まで社会・算数など教科ごとに1年~6年までまとめて置いていたが、学年で教材を置いてあると学年で相談がしやすい。教材は国語、社会、算数である。
- 家具(机椅子)は将来的には500×700になると思うので、現在の図面に落として密度感がどのようになるか確認して欲しい。低学年は35人学級で行われると思うので、35人を想定して図面を作成した方が良い。子どもの持ち物をどのように収納していくかが課題であり、御幸小の背面ロッカーはランドセルと物が入られるスペースの2段になり、少し高くなっていることは危ないという意見はあると思うが、子どもの持ち物をしっかり収納させることも大事だと思う。教室のクラススペースは個人机だが、オープンスペースは個人机ではできない大きな模造紙を使った活動などのために大型のテーブルを用意することが必要。
- 新設校の竣工も数年先なので、更衣室の設置が当たり前になっているかもしれない。面積が必要になる場所だが、学年に1箇所設置が主流になりそうなので、考えておくべきである。黒板については、プロジェクターの映像が綺麗に黒板に映るものがあるので黒板のままでも大丈夫である。実物投影機は授業を行う上で非常に有効である。吸音性能については気を付けて欲しい。静かなオープンスペースを作ることが大事である。オープン型の普通教室であっても少し閉じて音の廻りこみを防ぐ、空いている箇所から漏れた音をしっかり吸う、天井で吸うようにしなければならない。

② 教職員に対するスペースについて

- 職員室以外の休憩場所としては、狭くても良いので、休める場所があると良い。職員室は保護者や児童の出入りがあるので、飲食ができるスペースがあると良い。
- ちょっとした打ち合わせの多い職場なので、ミーティングができるスペースがあるとよい。

- 職員室の一角に飲食ができるスペース、教材を作るスペースとして使用できる学校もある。
- 職員室で会議ができると色々な学年の教員の様子を見ることができる。職員室がある程度コミュニケーションの場になる方が良いと思う。職員室に 10 人程度座れる大きなテーブルがあると若い教員が夜食を買ってきて食べるようなスペースになり、色々なコミュニケーションの場となることもある。
- 職員室にある大きなテーブルを使って教材作成などの作業を行うこともあるが、6 学年ある中で調整することになるため、気を使わずに使用できる場所として教師コーナーがあると良い。現状では印刷室にある大きな机に模造紙を広げて書くことがあるが、本来、印刷の作業スペースなので、肩身の狭い思いをしながら作業をしている。

③教職員の持ち物、収納スペースについて

- 個人で作成したプリント、本などがあると荷物は増えると思う。どの学年、どの教科に対応できるように教材を持っておくと非常に量が多くなる可能性がある。
- 学年の重要な資料については、校長室や保健室など鍵のかかるロッカーに入れるが、その他のものは自分の教室の教科書などを入れている棚、更衣室の空いているスペースに置く人がいる。
- 普通教室に収納スペースには教科書など授業で使う資料、毎日使うものを置いている。副読本、プリントなど、模造紙を作る時に使用するマジック、マグネットなども置いている。

④教員の業務を行う場所について

- 通知表など集中して作業をしたいものについては教室で行うことが多く、また、図工など大きな作品を評価する時には職員室に持って来られないので、教室で評価をしている。
- 教室にいて 1 人で作業をした方が効率の良いものであっても教科研究に繋がるので他の教員と話しながら業務を行う方が良いこともとある。効率は悪いかもしれないが、話しながら、コミュニケーションを取りながら進めていく業務が多いと思う。
- 授業を行っている場所がワークスペースにもなっているが、仕事上の相談を気軽にできる関係が学年間、先輩後輩、個人的なものなどいくつかあると思う。
- 別の場所にある打ち合わせコーナーに行けばよいのかもしれないが、直ぐに資料を出す時には学年の島で話ができると良い。
- 職員室で話し合うのは、近くにいる教員に相談することになると思う。職員室では低中高の島を作っていることが多いと思う。
- 職員室で学年会を行う学校では、机に荷物があるので話しにくい面はあるが、他の島と相談することもできるので、良い面があると思う。

第3回 新川崎地区新設小学校（仮称）基本計画検討委員会 デザインワークショップにおける主な意見

開催日時:10月2日(水) 15:00~17:00

開催場所:はるひ野小中学校 理科室

<特別教室に関する意見>

①家庭科室

- はるひ野はコンロとテーブルスペースが分かれている(コンロは窓側)が、小学校は班のところにコンロがある方がグループの進み具合が見られるので、指導しやすい。
- 一人一調理なので、カセットコンロを使うことが理想かもしれないが、実際にはグループに2つのコンロがあれば交代して作業に携わる、炒める工程が少なかった子は次の時には炒める担当を行うことができる。一回の料理で難しければ、数回行う調理の中で調整して行っている。
- カセットコンロを使うと同時並行で子どもたちの作業が進んでいくので、教員としては大変である。
- 学校施設開放し、地域のコミュニティのような場になることも考えて行かなければいけないかもしれない。
- 一人一調理として並行して作業を進めるためにコンロと水回りが増えると、そこにスペースが取られるので、別のところで支障があるかもしれない。
- 通常、準備室は半教室程度としているが、家庭科の準備室は理科室などよりも小さくてもよいかもしれない。ミシンなど建具で上手く収納出来れば準備室は半教室いらぬのかもしれない。
- アイロン、ホットプレート、電子レンジなどを授業で使っている。ホットプレートは全部のグループで使うとブレイカーが落ちてしまう。電気容量は大きした方がよい。

②生活科室

- 机が無く2教室の大きさで教室内に水道もあって色々な活動ができた。水周りは生活科では必要となる。何かある時に子どもたちが自由に動けるとよい。
- 調理や製作の場合には家庭科室や図工室を使うこともあるが、机の高さが異なるので、ホットプレートなど簡単な器具があればそこでもできるのではないかと指導主事からは聞いていた。
- 幼稚園、保育園交流をする時には場所が無いので、その時だけ体育館を使うことがあった。もし、部屋があればそこで活動ができる。
- 生活科室のような広いスペースがあると図工で共同してローラーを使った活動を行うこともできる。水を使う活動もあるので、すぐに掃除ができるとよい。音楽で表現活動をする時に使えるので、低学年にとっては使いやすい。
- テーブルは固定ではなく低いもの。容易に移動ができるとよい。生活科準備室があると必要な道具を置くことができる。
- 多目的では形状も細長くて使いにくい。2教室分くらいのスペースがあると簡単な運動もできる。低学年にあった空間として、体育館だと広すぎる。
- 共生教育のアイスブレイキング(子どもたちの心をほぐす)などで自由に動き回る時にも使用している。オープン型教室の場合、教室前のクラスターは繋がっているため、騒いでしまうと聞こえてしまう。オ

ーブンスペースとは別に閉じられている広い空間として生活科室があるとよい。

- 生活科室については、床はメンテナンスのしやすさ、次の授業への移行しやすさを考慮する必要がある。年間授業時間数を見ると図工や音楽での使用も考えられるので、作品保管庫など準備室を充実することで色々な活用が可能になると思う。

③図工室

- テラスに出られるようになっていて、外に作品を乾かせることが出来るのと良い。また、周りに水周りがあること、窪んだスペースがあるので電動のこぎりが収納できるのが良いと思う。
- 作成途中のものをどこに置くのか気にすると思う。高学年だけでも雨に濡れないテラスのような場所があると良い。普通教室の中だけでは限界があると思う。作品の置き場は重要である。
- 釘を使わない場合は普通教室で行っている。のこぎりやトンカチを使う場合は3年でも図工室で行い、4年と使う時期をずらしている。版画は図工室で行っているが、1年であれば教室にローラーを持ち込んで行っている場合もある。
- 絵を書くことは普通教室、製作は図工室で行っている。
- 小規模の学校で図工室が空いていても、移動する時間を考えるとわざわざ図工室に行って絵を書くことは無い。
- 絵具を持ってきて、自分の机で作業出来る場合は普通教室で行っている。のこぎりなど特殊な道具を使う場合は図工室で行っている。
- 水周りを一斉に使うのは、給食、外から戻ってきた時、掃除、絵を描く、習字をする時である。
- 各教室に水周りがあるよりも並んでしまうことになるので、別の場所にたくさんある方が良い。
- 普段の掃除であれば普通教室内に水周りがあると子どもを見られる範囲で出来るので便利である。

④理科室

- 固定した理科机は水溶液の単元では良いが、振り子やてこ、光源装置を使う時には実験を行う時には使いにくいと思う。顕微鏡も同様である。教員の机の前に子どもを集めて説明する(前のスペースを空けておく)のであれば、教員の机は低い方が良いと思う。子どもを座らせて見せるのであれば低い方がよい。
- 振り子の実験だけでなく、衝突の実験の時にも広いスペースがあると良い。他の学校では理科室の中に広いスペースが無いので多目的室など広いスペースのある場所で行っていた。他の場所へ移動することなく授業が出来ると1つの単元を一連の流れとして理解しやすいと思う。
- 安全面の指示を全員に伝える時には、子ども同士が向かい合って座る机よりも、教員の方を向いて座れる机の方が良いかもしれない。
- 黒板の両サイドに資料をかけられると便利だと思う。前の学習の記録した模造紙を掛ける時などに使用するものだと思う。黒板はもっと横に長い方が良い。

⑤外国語活動

- 英語でコミュニケーションの素地を作ることが外国語活動では大切なので、そこに行くと英語で話そうという気持ちになることが重要。
- 多目的室で授業をする場合、部屋を色々な用途で使用でき、使い勝手は良いかもしれないが、子ど

もの意識を高揚させることを見失ってはいけないと思う。あくまで主目的があって、他の目的でも使用できるという整理をしていくことが必要だと思う。今も5・6年生以外でも余剰時間を使って外国語活動を行っている学校が多いと聞いている。

- 国際理解の中で使うだけでなく、ゲストティチャーを招いた時に使うスペースとして位置付ければよいと思う。いつもと違う言語、お客さんに関わる場所として意識させることが大切だと思う。
- これからの教育課程では地域の方を招く活動が増えていくと思う。〔佐藤室長〕
- 1年～4年も回数は少ないが外国語活動を行うので、活動スペースを確保するために机を後ろに寄せて、普通教室の半分のスペースで授業を行っている。
- 1年～4年生はALTの教員、ボランティアの方と一緒に耳で英語を慣れ親しむ活動を行っており、座学ではなく、動けるスペースが欲しい。生活科室があれば活用できると思う。

⑥音楽室

- 音楽室内に手洗い場があると、楽器を使う時に手が汚れている場合に使えるので便利だと思う。
- オープンだと第2音楽室は欲しい。低学年の鍵盤ハーモニカは使用頻度が高く、他のクラスには迷惑となる。
- 合奏する、鍵盤ハーモニカを演奏するなど全員が同じ活動であればよいが、他に木琴を行う子などいると大変である。オープンスペースであっても低学年は少し閉じることができれば授業を行うことが出来る。普通教室が閉じられていないと合奏や演奏を行うと大変である。音楽は音を出さなければならない、子どもも音に集中したいと思う。オープンスペースの学校では閉ざされた空間が必要となる。

⑦図書室・コンピュータ室

- 図書室にある量のコーナーは低学年の読み聞か活動では良いと思う。休み時間に寝転がって本を読めるスペースになると思う。
- 場所の問題は大きい。教室とのアクセスが近いと良い。地域の方が図書室に入っているが、学校の端にあることが多いので、孤立してしまう。
- 教員によって調べ学習で図書室やパソコン室を使うことはあるが、日常的には本好きの子が借りる、読むことが多い。休み時間も何人か来ることもある。
- 閲覧スペースにパソコンを持ち込んで活用することについて、環境を整えば先々可能になると思う。今の子どもはネットを参考にしてしまうので、批判的に見て本で検証する、本から入った出し入れができる学びがあると良いと思う。

⑧特別教室の配置について

- 図書室はどの学年も行きやすい場所にあると良い。学校の端にあると図書室の利用頻度が低くなる。
- 理科室であれば外に出やすいところが良い。図書室は開放になることも考えられるので、1階にあった方が良い。
- 低中学年向けの第2音楽室は生活科と代用する形でもよいのかもしれない。低層階にあればよいのかもしれない。